

【期 日】 令和2年12月10日(木)

【場 所】 2年B組教室

【司会者】 宮原 政文

【記録者】 菅原 優子

1. 指導・助言の先生(高校教育課指導班指導主事 伊藤 匡先生)の紹介

2. 授業者(浅利 絵里子先生)から

普段おとなしめのクラスだが、今日は皆、発表やクイズを楽しんでいたのもっとその時間を取れば良かった。ジグソー法に関しては、生徒は迷いなく動いてくれたが、こちらの説明が煩雑になってしまった所があった。ただ楽しかったで終わるのではなく、植物の特徴について自分で考えるということ大切にしてほしいと思っている。「中央型探究授業」の視点である「主体性」に関しては、自分が担当した植物について責任を持って調べること、「課題解決力」については、自分が調査した内容やクラスメートの発表をもとに考え、この授業を通してその力を育むことを意図していた。今回の授業で学んだことや手応えについて、今後の授業で生徒たちに確認したいと思う。

3. グループ協議報告

● Aグループ(浦先生[司会]、秋山先生、小澤先生、三浦玲先生) 発表者: 秋山先生

良かった点

- ・ジグソー法を用いることで、生徒全員に発表の機会があり、グループを入れ替えることで変化、進展していく。課題解決力を育成する一つの授業形態であると感じた。
- ・植物の特徴について自分が調べて書いたものが冊子になり、生徒は自己有用感を持ったり、研究の積み重ねにもなっていると実感できたりすると思う。
- ・植物の写真や計時の画像を使って、視覚的に理解を促し、時間を短縮する工夫が見られた。

課題となる点

- ・発表方法の説明を短くしたり、エキスパート発表の回数を減らしたりするなど、時間配分の点で、もう少し工夫が必要であった。
- ・どの程度でエキスパートなのかの基準が曖昧では。「こういう点を中心に調べ、発表する」というような具体的な指示があれば良かった。
- ・クラス全体での共有がなかったので、調査項目を絞るなどして、最後その時間を取れると良かった。

● Bグループ(工藤先生[司会]、佐藤幸士先生、宇佐美先生、舟木先生) 発表者: 佐藤幸士先生

良かった点

- ・普段おとなしめの生徒たちも、生き生きと積極的に発表をしていた。クイズ形式を取り入れた点も非常に良かった。
- ・発表のしかたを事前に指導することで、聞き手の生徒たちに共感的態度が見られて良かった。

課題となる点

- ・生徒はただ資料を読み上げるのみで、質問もなく、考えは深まっていないのでは。もっと質問や話し合いの時間を取ったり、まとめのプリントを配付したりするなど改善の余地がある。
- ・工夫を凝らした教材であったが、時間配分の関係でそれを十分に生かし切れていなかったのが残念。ジグソー法の最後の所でもっと時間を取れば良かったと思う。

● Cグループ（関屋先生 [司会]、原田先生、菅原先生、水澤先生）発表者：原田先生

良かった点

- ・ICTによる視覚的効果をうまく利用し、授業でやるべきことが明確になっていた。
- ・クイズ形式にしたことで生徒たちの学習意欲の向上につながったと思う。また、発表後の拍手やシールの配付も意欲喚起、自信の育成に効果的であった。
- ・自分たちがやったことが目に見えて、“植物図鑑”として形になって残る、という経験を生徒たちに与えられたことは素晴らしい。
- ・生徒たちは、1回目の発表よりも2回目の方がより良い発表が出来ていた。原稿を読むのが中心だったとしても、繰り返すことに意義を感じた。

課題となる点

- ・授業の目標がどちらかというと「理解する」ということに重点が置かれていて、「課題解決力の育成」という観点では希薄になってしまった所があるのではないか。
- ・各班で発表、共有した内容がまちまちで、最後にまとまった知識として共有しづらかった。
- ・各班に対して、授業者からの反応や働きかけがもっとあれば良かった。
- ・活動中の指示が、全体に対してなのか、それとも個に対してなのかが曖昧な所があった。

4. 指導助言（伊藤 匡 指導主事）より

良かった点

- ・教科指導に自信が見られ、先生自身も楽しんでいて。これは非常に大切なことである。
- ・生徒たちは主体的に動いていて、普段から熱心に授業に取り組んでいる様子が見えたと感じた。
- ・今回はジグソー法という大変な挑戦をし、生徒たちが発表を通してお互いに気づきを促し、考えを深めることができた。「探究」の要素が十分取り入れられていた。
- ・県教育委員会では、全ての生徒にとって分かりやすい“ユニバーサル・デザイン”の授業というものを推進している。浅利先生の話し方、指示は生徒に伝わりやすく、画像やタイマー、クイズ形式などを効果的に使い、全ての生徒が見通しを持てるユニバーサル・デザインの授業であったと思う。ジグソー法に関しても、生徒個々に対しての配慮がなされていた。

課題となる点

- ・発表の説明の所がやや教えすぎる感があり、もう少し絞っても良かった。今後は特に、教師は“脇役”となり、生徒主体で動く授業が主流になってくる。

来年度から、生徒一人に1台の端末が支給され、ICT活用の機会はますます増えてくる。今回の授業について言えば、ICTを使って事前に班分けを生徒に提示したり、紙面ではない植物図鑑を作成したりすることも可能である。先生方にはぜひICTの積極的な活用をお願いしたい。

